

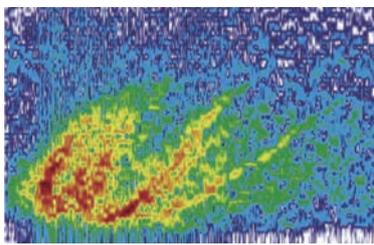
各 部 局 公 開 講 演 会

生存圏研究所公開講演会

- 日 時：平成21年10月24日(土) 13:00～16:40
- 会 場：宇治おうばくプラザきはだホール(会場案内図(7・11ページ)の②)
- 定 員：300名 ■ 参加料：無 料

■ プログラム

13:10～14:00 「宇宙の音、コーラスの謎を解く」



教授 大 村 善 治

講演要旨：オーロラが光ると同時に宇宙から届く電波は、スピーカーに通すと鳥の鳴き声のような音となって聞こえます。この電波はコーラスと呼ばれて50年来の謎でしたが、地球の放射線帯の変動に深く関わっており、宇宙環境を利用する上でも重要であることがわかってきました。その発生の謎を解明した最新の研究成果を紹介します。

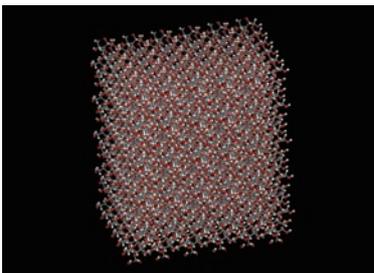
14:00～14:50 「リアウ生物圏への招待」



准教授 林 隆 久

講演要旨：インドネシア・スマトラ島リアウ州にある自然林・観光林それにSinarMas社の産業人工林が複合した領域(78万ha)が、"UNESCO Wild Life Reserve"として登録されました。このサイトを中心として、インドネシアの研究者たちとともに、京都大学の教員、研究員、学生による文理融合の研究が展開されつつあります。

15:00～15:50 「分子の世界を見てみよう ー天然高分子材料セルロースを例としてー」



准教授 田 中 文 男

講演要旨：高等植物の構造を支えているのは人間の目に見えない超微細な分子で構成された構造体です。その中でも主要な役割を担っているセルロースの形を人間の目で認識できるようにする方法を紹介するとともに、そのセルロース分子鎖集合体の構造と材料特性との間の関係を明らかにする方法の一例を紹介します。

15:50～16:40 「植物で自動車を創る ーバイオナノファイバーの製造と利用ー」



教授 矢 野 浩 之

講演要旨：植物細胞は鋼鉄の5倍の強度のナノ繊維で出来ています。この繊維を使うと、鋼鉄の様に強い材料や、ガラスのように透明で熱膨張が小さく、しかも折り畳まれる材料を作ることが出来ます。その技術と自動車への応用について紹介します。